

3週間目

「初めてお姉ちゃんのおっぱいを飲んでからもう三週間目かーんふふ、すっかりいい子なっちやつたね」

「じゃあ、ご褒美を上げるわね」

「ほら、アナタの大好きなお姉ちゃんのミルクよ、たくさん飲んで♡ おっぱいにしゃぶりついて、ちゅっちゅしていいわよお、アナタはお姉ちゃんの弟なんだから、この大きなおっぱいに甘えていいのよ。何も考えずに安心してお姉ちゃんのいうことだけ聞いてね」

「ん、あはっ、スーツ着てるのに、さっそくおっぱいに顔を擦りつけて……♡」

「もう、すっかり甘えん坊になってくれてお姉ちゃんうれしい はーい、じゃあ、お姉ちゃんの洗脳ミルク飲みましょうねえ♡ ママの母乳だと思って、たらふく飲んで、いいコになっちやいましょう。んふふっ」

「んんッ、んんッ♡ はい、両方のお胸を出したわよ」

「どっちもアナタのもの♡ 好きなほうを選んで♡ 右は少しおっぱいが少ないけど、甘くて濃いわ。左はジューシーでたっぷりミルクが出る感じよね。アナタのために改造してもらつたおっぱいだから、アナタの大好きなミルクはいっぱい出るようにしてもらつたの。お腹いっぱいになるまで飲んでいいのよ」

「はふ、あふううッ、そっちのおっぱいにするのね。じゃあ、いっぱい吸つて、あ、あつ、ああつ、あはああーっ♡ お手てで、ちゃんとおっぱいを揉んだり♡ あ、ああ、搾つたり♡ あふ、あふ……あふうう……すっかり、ミルクが大好きになつてお姉ちゃん嬉しいわ」

あ、あんツ、あんんツ、そうツ、そうよお」

「すっごくお上手、お上手うんふ、んふうツおっぱいを根本から、ぎゅつぎゅつて搾ると、いっぱいお姉ちゃんミルクが出るのよお、あふ！」

「いい子いい子。なうでなで、なうでなで♪」

「もう正義の味方さんみたいな、危険なこともしなくなつたし、昔の弟くんみたいにアナタが戻つてくれて、本当に良かつたわあ♡ ああ、とつてもかわいい。いっぱい抱きしめちゃう」

「我好想你」

「お姉ちゃんなどずっと一緒に暮らしましょうね。アナタは何にも考える必要はないの。お姉ちゃんに甘えて、おちんちんおつきくなつたらエッチして、永遠にここで一緒に居ま  
しょう♪」

「お姉ちゃんの二つのおつきなお胸で、窒息するぐらい、えい、えいっ、ぎゅつぎゅしてあげる。んふう、おっぱいの間に、アナタの顔を挟んで、んんッ、むにむにの、おっぱい」「サンドよお♡ んふ、んふう♡」

「大きなお胸の柔らかな感じは、どうかしらあ♡お姉ちゃんのぬくもりも、香りも、ミルクも、何もかも、アナタのものよ、思う存分、堪能してね♡」

「んツ、んんツ、んはあツ、んああツ……どうしたの、お乳の先に吸いついて、あ、あはあ……あんツ、おっぱい、もっと飲みたいのね」

「いいわ、そう、そうして、盛りあがった乳房の根本から先へ、きはうきはううて、し、搾つて……あ、ああ……あはああ……ツ……」

「幸せ、幸せっ♡ お姉ちゃん、アナタにミルク吸われるのとつても幸せなの。びゅつ  
びゅ、いっぱいミルクでちやう♡ もつと吸つて、いっぱい吸つて♡」

「アナタもお姉ちゃんのミルク、洗脳ミルクで頭真っ白になるまでとろけるの大好きで  
しょ？ いいのよ。お腹いっぱいになるまで吸つて、お姉ちゃんの事以外忘れて赤ちゃん  
まで戻っちゃうの……お姉ちゃんのエッチな洗脳ミルクに負けちゃって、ミルク吸うこと  
だけ、お姉ちゃんに甘えることだけ考えて生きていくの、素敵なことでしょ？」

「んあつ、ミルクいっぱいしゅわれるの気持ちいいいっ♡ もつと吸つて、アナタも幸せ  
に、洗脳ミルクで幸せなことだけでいっぱいになるの♡ ふあつ、んふうつ♡ お姉ちゃん  
おっぱい吸われるだけでイッちゃうのつ♡ いつはあああああ——ツ♡♡♡」

「あ、あん、あん、ほら、飲んで、真っ白で甘くてトロトロにしてくれるアナタの大  
好きな洗脳ミルク。全部、アナタに飲んれほしいのぉ、あはあツ……」

「んふう、そうよ、先っぽに吸いついて、ちゅば吸いしてえ♡ ふあつ、んつ♡……どん  
どん吸われて♡……お姉ちゃん幸せで気持ちよくて……いいよ、もつともつと♡……何も  
気にしなくていいの、何も考えなくていいの……はあ、んあつ♡……大好きなお姉ちゃん  
のおっぱいに顔をうずめておっぱいを吸つて……嫌なこともくだらないことも全部忘れて  
……ん♡ お姉ちゃんのことだけ考えながらミルクを吸うの。とつても素敵でしょ？」

「はあ、はあつ♡……んあ♡……ふう、ふー♡……あ、あつ♡」

「んふふ、お姉ちゃんのミルク大好きになつてくれて、とつても嬉しいわ。こんなにミル  
クでおかおべちゃべちゃにしちゃつて……おねえちゃんもアナタにミルク吸われてとつ  
ても幸せだつたよ」

「あ、おちんちんもまた大きくなつて、んふふ。そうね、お姉ちゃんにも弟くんのミルク。とつても濃いせーしミルクいっぱいごちそうしてね。空っぽになるまでお姉ちゃんで出したらまたお姉ちゃんのミルクで満たしてあげる。ずっとずっと、お姉ちゃんと一緒だよ」

「はあ、はあ♡ きちんとおちんちん勃起しておねだりできるなんてイイコイイコ……いっぱい白くてドロドロのミルク射精したいよね」

「じやあ、今度は、おまんこできゅつきゅして、おせーし、びゅーびゅーしましようね」

「空っぽになるまで、お姉ちゃんのドスケベおまんこ、使っていいのよ。私は、アナタだけのお姉ちゃんなんだから♡ 座つたままでいてね♡ お姉ちゃんが跨がつて、ぎゅうう、つて抱っこしながら、射精のお世話、してあげるから♡」

「たゞつぶり、精液を出しちやつて、正義の味方だつたこととか、お姉ちゃん以外の大切な人とか、くだらない信念とか、もうほとんどビュッびゅつて出し切つちやつたから最後の絞りカスも射精しきつて、きれいに忘れちゃおうね」

「それじやあ、弟くんのおちんちんに……お姉ちゃん、腰をゆっくり落としていっちゃんとまーす」

「ほーら、お姉ちゃんのとろとろの穴だよ……いつものようにおちんちん突っ込んで白いのいっぱい出しましようね。アナタの大好きなおっぱいにしゃぶりつきながら腰をへこへこして、せーしいいっぱい吐き出すの。空っぽになつたらお姉ちゃんのミルクで補給してまたいっぱい出していいの。好きなだけおちんちんからせーしひゅつびゅつてしていいのよ♡」

「じやあ、弟くんのおちんちん、いただいちやうわね♡」

「んんッ…… はあ、んあっ♡」

「あ、ああ、あはああ…… お姉ちゃんまんこに、可愛いオチンポが入ってきて♡ あんッ、入れられただけで、お姉ちゃん、胸がきゅんきゅんしすぎて。ふー、ふー♡…… アナタのおちんちんもすっかり素直になつてお姉ちゃんの中でビクンビクン喜んでるね。えらいえらい」

「ふふふ、もう必死に腰振つて気持ちよくなろうとしてるのかわいい。お姉ちゃんもアナタのヘコヘコピストンに合わせてばちゅんばちゅんオマンコ上下させてあげますねー♡」

「どう？ お姉ちゃんの中。どんなおちんちんでもフィットするように改造してもらつたのよ。アナタのカワイイおちんちんもほら。ムギュって包んで全部気持ちいいでしょ？」  
「うん、いいこいいこ。お姉ちゃんがもつともつと何も考えられなくなるぐらい気持ちよくしてあげるからね♡」

「あ、あっ、ああっ、このまま腰をもつと動かして、おちんちん全体を、気持ち良く扱いてあげるわね。はあっ、はあっ♡…… んふうつ♡」

「お姉ちゃんのヒダヒダが絡んで、硬く張った亀さんを、たくさん扱いてあげる♡ えらいえらい、しこしこしこッ、しこしこしこッ♡ えらいえらい♡」

「ん♡ 先っぽがビクビク震えて、もう出ちゃいそうつて、おちんちんが言つてるわねえ。いいのよ好きなときに出しても。お姉ちゃんにいくら出してもいいの。あ、ああ、このまま、お姉ちゃんのドスケベまんこに、アナタの元気なおせーし、いっぱい、どっびゅどっびゅ、吐きだして頭真っ白になりましょうね♡」

「そしたら、お姉ちゃんの洗脳ミルクで新しいアナタを書き込んであげる。とつても可愛いいいコになるの♡」

「ほら、出して、出して♡」

「今までのアナタの全部出しきって、アナタの大好きなお姉ちゃんがとろとろの膣で全部搾り取って上げる。だから、こ、濃くて熱いの、いっぱいに流しこんでえ♡」

「はあ、はあっ♡……ふう、ん、んんっ♡ ほらほらほらあ、ほらあ、出して、出してえ♡ 誘惑に負けちゃってもいいの。頑張らなくてもいいの。気持ちいいことだけ考えておちんちんへコへコするのえらいえらい」

「びゅつびゅつびゅうう～ツ、びゅつびゅつびゅうう～ツ♡」

「んはあっ♡ そうそう、お姉ちゃんの中、子宮いっぱいになるまで、アナタの中空っぽになるまで射精、射精。えらいえらい。んつふあ♡ 熱くて、濃いいの、い、いっぱい来て……」

「いいコ、いいコ♡ いっぱい出してるよ。お姉ちゃんの中にぶぴゅぴゅぴゅってアナタの全部。あは、とってもいいコでちゅね……あ、ああ……まだ、沢山出て。あふ、ん♡ アナタのこれまでの全部が詰まつた精子美味しい。ふふふ」

「ほら、お姉ちゃんのおっぱいに埋もれて全身で気持ちよくなつていいのよ。フー、フーッ♡ とってもカワイイイ弟くん。ん♡ あふれるぐらい射精して、もう心の底からとろけてる顔。とってもカワイイ。いいの、情けない顔して情けない声出しても。もうアナタは正義の味方でもなんでもなくなるのだから。とってもいいコになるの。お姉ちゃんの言うことを聞くだけのとってもいいコにね」

「全部出しきったのね。えらいえらい。本当にえらいわあ♡」

「さあ、ご褒美のミルクでちゅよ。アナタの大好きな洗脳ミルク。お姉ちゃんがアナタの中、全部新しく書き込んでとってもいいコにしてあげる」

「ふあっ♡ そうそう、遠慮なんてなくなつてお姉ちゃんのおっぱいに吸い付いてくれるようになつたのね。えらいえらい。お姉ちゃんも頑張つてとっても濃いミルク出してあげる。空っぽになつたアナタにお姉ちゃんの洗脳ミルクを染み込ませていくの」

「あ……出したばかりなのにもうこんなに固くして♡ いいのよ、ミルクを飲みながら中に入れたまままた好きなだけおちんちんで気持ちよくなつていいの。んふ、すぐに大きくなつて、お姉ちゃんの中で暴れてる。とってもカワイイよ。とってもいいコね」  
「これでお姉ちゃんのことだけ考えてくれる弟くんになつたのね。いいよいよ。もつといつぱい、お猿さんの様におちんちんを奥にぎゅつけてして♡ 突き付けたまま、頭真っ白になるまで、気持ちよくなつてせーし出してえ♡ お姉ちゃんのミルク飲みながらお姉ちゃんに精子ビュッビューって出して、ぐるぐる幸せに暮らしましよう♡ これでいいの」

「あ、あ♡ おちんちんで奥まで♡ いいよ、お姉ちゃんも気持ちいいよ。一緒に気持ちよくなろう♡ このまま、ずっとずっとセックスしましょう♡ あ、あ、ああッ♡ お姉ちゃん、怪人さんになれて、幸せ♡」

「アナタのこと、こんなにも気持ち良くなれて、疲れることもなく、ずっと、ずっと、セックスできちやうんですもの」

「あはッ、あはあッ♡ ん、んんっ♡……ふあ、あ♡ ああッッ♡♡♡」